

2-⑦ 指導計画の改善

言葉での伝え合いの必要感を大切にした外国語科・外国語活動の指導

小千谷市立吉谷小学校 大野 滋

1 研究の視点に対する実態

当校は、田園地帯に位置する全校児童86名の小規模校である。幼い頃から、ほぼ変わらない人間関係の中で育ってきており、互いにその人柄や性格がよく分かるというよさがある一方、考えを言葉にして伝え合ったり、吟味し合ったりする必要感に乏しく、考えをぶつけ合ったり、競い合い高め合おうとする活力が不足する傾向が見られる。

職員は、学級担任のうち半数が、勤務経験が2ヶ校以下であり、外国語科・外国語活動の指導が初めてだったり、外国語科・外国語活動の時間の在り方や指導内容や方法への理解が不十分な面が見受けられる。

外国語科・外国語活動での見方・考え方として、「外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて、情報や自分の考えなどを形成、整理、再構築すること」が求められている。外国語科・外国語活動は、単に言語の習得のためだけの学習ではなく、日常とは異なる状況下でコミュニケーションを行うことのできる貴重な場であり、そこに、互いの意見や考え方、感じ方を伝え合う必要感を生み出すことができる。そのための指導計画づくりを通して、職員の意識改革と授業改善を推進し、互いに考えを高め合い、ものの見方を広げることができる子どもたちの育成を目指している。

2 改善のための具体的な方策と取組内容

(1) 毎時の学習の流れの確立

子どもたちに育みたい資質や能力は何かを明確にし、その実現を目指した学習の流れを確立させたい。また、ALTとの役割分担を明確にし、求める学習を成立させたい。

そのために、外国語主任を中心としたチームを組織し、他校の事例の調査とALTからの情報収集をもとにした、1時間のモデルプラン兼ALTとの打ち合わせシートを作成させた。そして、ALT来校日以前に作成を完了させ、ALTが前もって閲覧することができるシステムを構築した。このことにより、ALTとの打ち合わせと毎時間のプラン作成が確実に簡便に行うことができるようになるとともに、毎時の学習の流れの確立につなげることができた。そして、9月からALTが交代したが、これまでの流れを継承していくことが可能となった。

(2) CLIL（内容言語統合型学習）を踏まえた指導計画作成のための土壌づくり

外国語科・外国語活動の学習が、単なる言語の習得のためだけの時間としないようにするためには、学習時に言葉にするその内容をどんなものとするかが、鍵となってくる。言葉にするその内容は、子どもたちにとって意味や価値のあるものでなければならないし、言葉にする必然性を生むものでなければならない。

そのために、CLILについての研修を外国語主任と研究主任を中心としたチームに計画させ、その理解を深めた。外国語科の学習でも、学年での行事や国語や社会科で学習したことをその表現内容とした実践も行われるようになってきた。このような実践を積み重ねた上で、各教科の学習と関連付けた外国語科・外国語活動の指導計画づくりを学年部単位で推進していきたい。そして、全教育活動と外国語の学習内容との関連を全教職員で共有できるようにしていく。

(3) 教師の指導力の向上

外国語科・外国語活動の時間の充実のために、教師の指導力と教科や活動への理解の向上を図りたい。

そのために、校外の研修会に積極的に職員を派遣し、その報告を全職員で共有したり、指導者を招いての研修を企画したりしている。このような取組を通して、外国語科・外国語活動の指導の在り方について職員の意識を高め、指導力の向上につなげていく。また、これまでの職員研修の成果や流れを活用して、授業改善を目指した全職員協働による職員研修にもつなげ、「考えを伝え合い、主体的に学ぶ児童の育成～聞いてつなげる伝え合いを目指して～」という研究主題につながる授業づくりを目指していきたい。

3 取組の成果と残された課題

職員の外国語科・外国語活動への理解は、徐々に深まってきている。そして、毎時間の学習の流れも確立されつつある。児童は、普段と異なる状況下でのコミュニケーションだからこその伝え合いを楽しんでいる。この流れの中で、よりよい授業づくりを通して、互いに考えを高め合い、ものの見方を広げることができる子どもたちの育成につなげていきたい。

そのためにも、授業を公開し合ったり、指導計画の充実を図ったり、評価について検討をしたりし、外国語科・外国語活動が学校の課題解決にもつながる充実したものとなるように努めていきたい。